

子どもは未来をつかみたい

2012年度 活動ダイジェスト 2013年度 事業計画

目次

ラオスのこどもとは？	1
2012年度 第11期 事業報告	2
2012年度 第11期 会計報告	8
2013年度 第12期 事業計画	9
第6次中期計画	11



(認定) 特定非営利活動法人 **ラオスのこども**

〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12,303

TEL/FAX 03-3755-1603

E-mail deknoylao@yahoo.co.jp <http://deknoylao.org>

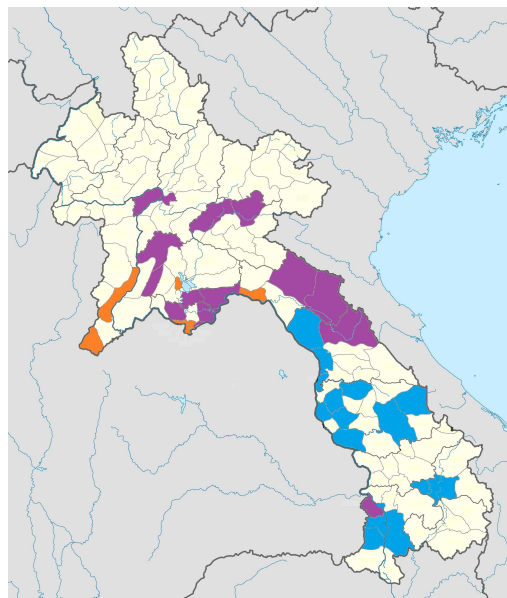
2012年度 第11期 活動ダイジェスト(2012年7月～2013年6月)

ラオスでのプロジェクト

- I. 本に出会い、親しむ(読書推進活動).....p3
 - 学校でもっと図書を活用するための活動
 - 6県11小中学校に図書室をオープン
 - ラオス事務所併設こども図書館の運営・イベントを開催
- II. 本をつくる(出版プロジェクト).....p4
 - 図書3作品、約1万部をラオスで出版
- III. 集い、表現し、学び合う(子どもセンター).....p5
 - 6つの子どもセンターで、17プログラム(講座)をサポート
 - スタッフの運営能力強化のための研修を実施
 - 「子どもブックフェスティバル」を2ヶ所で開催
 - 高校生のための奨学金事業(受託事業)

日本での活動.....p6

- イベント開催:ラオスの正月「ピーマイパーティ」、ラオスの織物展、勉強会
- 小・中・高校・大学に、開発教育(国際理解教育)の授業を出前
- 参加型プログラム:スタディツアー、ラオス語絵本プロジェクト、書き損じハガキ



プロジェクト活動地
10県 39郡

「ラオスのこども」とは？

はじまり

1982年、ベトナム戦争後の長引く混乱と停滞の中、東京在住のラオス人と日本の友人とが、「ラオスの子どもたちも日本の子どもたちと同じように絵本を楽しんでほしい」と幼稚園のバザーなどで集めた絵本をラオスに送りました。これが「ラオスのこども」の活動の始まりです。

足どり・活動の柱

本も書店も図書館もほとんどなく、読書をする人も少ないラオスでは、多くの先生にとって、絵本は初めて出会うものです。1990年代に入り、会はラオス語の絵本出版を開始。あわせて、子どもと本をつなぐ先生のトレーニングなど読書の推進普及に力を注ぎました。また、学校では音楽、図工、体育や部活動が行われていないことから、そうした活動ができる児童館のような「子どもセンター」を各地で開設支援しています。

めざすものー子どもは未来をつかみたい

「ラオスのこども」の活動の目的は、子どもが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択する権利を全うできる社会、公正で平和な地球社会づくりに貢献することです。日本、ラオスをはじめ多様な人々の参加によって、同時代を生きる地球市民としてともに成長していくことをめざします。

今期の取り組み、成果

当会は読書推進活動の拠点として、学校に焦点をあてています。今期は、教育現場での読書活動を県・郡の教育行政機関が力強く支えるしくみづくりに注力しています。また、各校を巡回訪問し、状況に応じた指導を繰り返し丁寧におこなうことで、学校での図書活動が活発化しています。

出版では、創作絵本、短編小説コンテストの入賞作品集、栄養をわかりやすく解説した料理本など、新人からベテランの作品まで、多彩な書籍を出版しました。学校外で子ども同士様々な活動ができる「子どもセンター」は、職員の要望により、運営能力とプログラム企画能力向上のための研修に取り組みしました。



この1年

ラオスの状況

ラオスのこの一年をひと言でいえば、「社会のますますの経済発展と格差の拡大」「ASEANの一国としての自覚」と表現できるでしょう。これまで都市部中心だった消費活動の活発化が、地方都市にも広がり、国中が元気になっています。その反面、現金を手にする層とできない層の格差はますます開いています。政治は、ASEANスタンダードにいかにか近づけるかにもっぱらの関心を向け、法律整備、徴税の厳格化、教育制度の変更、公務員給与の増額など社会システムの変更にも手を付け始めています。しかし、現場レベルでの教育改善が一步、二歩と遅れていることは変わりません。このように、ラオスが普通の国になるにつれて、私たちNGOは、「誰のために、どのような役割を担うか」をこれまで以上に問い直す必要が生まれています。一方、ラオスは社会主義の党独裁国であることを強く認識する出来事もありました。ラオス人社会活動家の失踪事件です。これはいまだ詳細が明らかになっていませんが、NGOにとり、ラオスでの活動は、「自由」ではないことを再認識させられました。

活動の課題、重点的取り組み

本年度で終了する第5次中期計画で、私たちは、活動の現地化促進を打ち出しました。これは、ラオス現地でのプロジェクトの自発的な担い手である人材の育成。そしてそれを支えるラオス事務所の自主、自立化の支援を意味します。この方向性については、ラオス事務所とも合意形成ができているものの、「自立」支援の必然性は東京側にあり、ラオス側ではリアリティーが弱いままでした。しかし、この数年取り組んできた地方教育局に設置した読書推進センターに対する思い入れ、またこれまでの学校という場を限った活動から、「地域」を巻き込んだ

活動に拡げることで、活動が地に足の着いたものになるのではないかという読書推進の話し合いなどで、ラオス事務所から様々な提案も出るなど、徐々に「自立」イメージの共有ができてはじめています。

私たちの活動の大きな問題である、財政難の克服は、数年ぶりに今期赤字決算を免れ、改善は見られたものの、本質的な解決にはほど遠い状況が続いています。資金調達の力が不十分であることを、単にテクニックとして捉えるだけでなく、ラオスの子どもたちへの支援の共感の輪を拡げられない、運動体としての弱さを自覚し、建て直す必要性を感じています。

具体的なプロジェクトにおいては、学校図書室ハックアーンのフォローによる図書室活動の「質」の改善。出版活動における「質」の向上。子どもセンターに対する評価活動など、量より質を問う活動を展開することができました。みなさまのご支援を感謝いたします。ありがとうございました。



ラオス全国小学校の就学率の推移

年度	純就学率(%)		
	計	女子	男子
1991/92	59		
1995/96		65	72
1999/00		74.2	80.3
2000/01	80		
2004/05		76.9	80.8
2005/06	84		
2006/07	86.4	84.5	88.1
2008/09	91.6		
2009/10	92.7		
2010/11	94.1	93.3	94.9

ラオス県別の小学校の純就学率 2011-2012

(最高) ヴィエンチャン都	99.4%
(最低) ポンサリー県	86.0%

残存率(入学した児童が卒業する割合) 2011-2012

全国平均	67.2%
(最高) サイヤブリー県	89.0%
(最低) サラワン県	41.5%

中学校進学率と純就学率 2011-2012

中学校への進学率	88.0%
中学校(中1-4)純就学率	64.7%
高校(中5-7)純就学率	34.7%

(出典)教育省統計情報センター (2010年度以降は、Annual School Census 2010-2011、2011-2012)

純就学率:教育を受けるべき年齢に、実際に教育を受けている人の割合

Ⅰ 本に出会い、親しむ（読書推進活動）

ラオスの小学校では、教科書が1人1冊そろわない地域が多く、学校で読み書きを習っても、学校を離れると、日常で文字にふれる機会がなく、やがて読み書きを忘れるという状況が続いてきました。多民族、多言語社会でありながら、授業は公用語のラオ語のみということも読み書きの習得のハードルとなってきました。

当会では、ラオス国立図書館、教育スポーツ省、県・郡教育局と連携し、1992年から約3,000校に図書を配付、231校に図書室を開設し、読書習慣の普及を図っています。

子どもと本をつなぐ役割を担うのが先生です。しかし、読書習慣を持たず、本に関心を向けない、給与が安く、農業などの兼業で教育へのモチベーションが高くない、といった例は少なくありません。そのため当会は、先生が本に関心を高めるよう、多方面からアプローチをしています。

学校でもっと図書を活用するための活動

絵本をもとに劇を演じるなど授業に絵本を取り入れ、子どもの学ぶ力を高めることを目指し、3県36の図書室設置校を訪問しアドバイスをを行いました。また、十分な活動ができていない学校11校を対象に、問題解決のためのフォローアップ研修を実施しました。各校の状況に応じた指導を、繰り返し丁寧におこなうことで、学校での図書活動が活発化するという成果に結びついています。



【事業開始時から1年半後にみられた成果】

図書室を週3日以上開放している学校が25校から33校に増加
図書室利用者数(週あたりのべ人数)が26校で増加
「読み聞かせ」を実施する学校が14校から23校に増加
図書を活用した「演劇」「詠唱」を実施が4校から23校に増加
科学本や学習科目での図書活用が2校から12校に増加
(小中学校における図書活用強化事業(第1期・第2期)／日本NGO連携無償資金協力事業)

6県11小中学校に図書室をオープン

空き教室などを利用した図書室開設を、今期は6県小学8校と中学3校で行い、あわせて先生向けの研修を実施しました。

また、これまでに開設した220校のうち、31校に図書を補充。17校には、スタッフが訪問し、運営アドバイスを

をしました。ヴィエンチャン都内の学校図書室の担当者を対象に、図書室活動に関する”おさらいセミナー”を1月に実施しました。既設校へのこうしたフォローは先生方の意欲向上にとっても重要です。



事務所併設こども図書館の運営・イベント開催

事務所併設こども図書館は平日と土曜に開館し、近隣の中学2校、小学4校の子ども達を中心に、1日平均51人が来館し、1日40冊の図書を貸出。新規会員数は170人です。



イベント実施の際は、子どもたちが積極的に参加できるようなプログラムを取り入れるように工夫しました。

フォローアップ研修の締めくくりに、各校ごとに、図書利用を活性化させるための案を出し合います。

「図書室を担当する先生を3人増やす」「休み時間以外に朝も図書室を開けて、利用人数を50人増やす」「図書委員の生徒を6人にする」「校内の先生全員が図書室に関わるようにする」「教室での授業時間の一部を図書室利用にあてる」具体的な目標を自分たちで考えるので実現しやすく、同じ悩みを抱える仲間と話すことが励みになっています。

II 本をつくる（出版プロジェクト）

ラオスでは、首都でも書店がほとんど見当たらず、本を目にしません。子どもたちが本に親しむには、ラオス語で書かれた作品が不可欠ということで、会は1990年から絵本を中心にラオスでの出版を手がけてきました。作家がほとんどいない中、日本人、タイ人の専門家による絵本作りセミナーを絵心のある教員、学生などに呼びかけて開いたり、コンクールを通して作家を発掘、育成し、これまで192点823,055部の書籍や紙芝居を出版しています。

近年は消費社会化が進み、ファッションや流行情報を発信する雑誌も登場し、出版を取り巻く状況は急速に変化しつつあります。子ども向けの書籍は、NGOや援助機関による無償配布が前提となっていることもあり、質の向上が課題です。会は「子どもの心に灯をともし」ような、質の高い本作りを目指しています。

出版、紙芝居、約1万部を出版

今期は、図書3作品、計9,500部を出版しました。すべて新刊1作品です。



ドデカあたまおぼけ

3,500部

文絵)アムパントーン ペットブンポーン

2011年11月に開催した「おはなしづくりワークショップ」参加者の作品。夜更かしをする子ども食べてしまうおぼけのお話で、若手による創作絵本。

《支援:学習院女子大学》



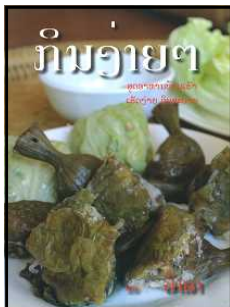
サンシンサイとiPhone

3,000部

文)チュン ヒヤン ノ、ドックチャン他13名 絵)シースヴァン、アピシット他8名

短編小説コンテスト入賞作品集。コンテストは「想像力は夢を叶える」をモットーにラオスの出版社ドッケーとフランスのNGO「L'EquiLivre」が開催した。約380作品の応募があり、入賞した31人中21人が大会が支援する学校図書室の利用者だった。本書は入賞42作品のうち17編の作品を収め、第2弾として出版した。

《支援:沖電気工業株式会社》



かんたんごはん ～作ってかんたん、食べて健康～

3,000部

文)パーラー(ラーおばさん) 写真)スックパンサー プパスック

子どもに必要な栄養の知識をわかりやすく解説したラオス料理のレシピ集。自然と共に育んできたラオスの食文化は、都市部を中心に大きな変化が起きている。毎日の食生活を考えるヒントとして欲しいと、雑誌「ランカム」に連載した記事をまとめたもの。中学校の家庭科の授業にも活用しやすいと教員からも好評。

《支援:地球市民財団》

「外国のむかしばなし」の著作権問題について

ラオス事務所が若手育成の思いから、現在ラオスで人気の高い外国のおはなし集を新たな着想で描く作品をめざし、「外国のむかしばなし」3,950部を10月に出版、学校などへ配布をしました。しかし、同書中の「おおきなななぶ」「がらがらどん やぎ3匹」が、福音館書店発行による『おおきなななぶ』『三びきのやぎのがらがらどん』に特に似て描かれていることがわかり、著作権上問題があると判断し、配布を停止しました。同時に出版社に事態を報告し、在庫分の廃棄、配布分の可能な限りの作品回収を行うことが決まり、ラオス事務所でも対応を行っています。

これは、組織として著作権に対する認識が十分に共有されていなかった結果であり、福音館書店、スポンサーおよび、支援者の皆様に、ご迷惑をおかけしたことを反省しお詫びするとともに、今後、会の出版システムを見直すとともに、開催する絵本セミナーなどの場で、作品のオリジナリティ、著作権の大切さを伝え、より創造的な作品の出版に注力するために努力を続けます。

この出版にご支援いただいた資金については、支援者から他の出版物への組みかえをご了解いただきました。

Ⅲ 集い、表現し、学び合う（子どもセンター）

ラオスの学校は、座学による暗記中心で、音楽、図工、体育はカリキュラムはありますが、指導できる先生がいない、用具がないなどで、子どもたちの情操面を伸ばしたり、チームでの活動をする機会がほとんどありません。

1994年に、当会などの協力によって音楽、舞踊、図画工作などの表現活動ができるラオス初の子ども施設として、情報文化省による「子ども文化センター」が開設されました。その後、全都県に設置されましたが、講師の雇用、教材費、行事開催などの資金確保が難しく、魅力的なプログラムが組めず、近年、都会の子どもたちはインターネットゲームショップに夢中になるなど、不活発な状態が続いてきました。

当会においても日本から支援は、緊急性が低いと判断されるなど理解を得ることが難しく、支援するセンターの絞り込みに踏み切らざるを得ませんでした。

プログラム支援

今期は6か所の子どもセンターにおいて、合計17プログラムの講師料・教材費・移動費を支援しました。伝統音楽プログラムについては、入手が難しい楽器を調達、供給しつつ、講師料の支援をしました。

＜支援プログラム＞

- ・ヴィエンチャンCEC・・・「合唱」「伝統詠唱」「伝統楽器」
- ・シーサタナークCCC・・・「読書推進」「絵画」
- ・ボリカムサイCCC・・・「劇」「工作」「図書室」「地域活動」
- ・ボーテンCEC・・・「伝統舞踊」「伝津音楽」「手工芸」
- ・パクライCEC・・・「詠唱」「伝統音楽」「地域での活動」
- ・ケオクーCEC・・・「伝統楽器」「機織り」

CEC=子ども教育開発センター/CCC=子ども文化センター

運営強化のためのセミナー

各地のセンター職員からの希望に応え、自立し安定したセンター運営のための広報や資金調達、新しい遊びのノウハウを先生たちに身につけてもらうための子どもセンター運営能力強化研修を10月に6日間実施しました。研修は、(1)地元で活動への理解を集める方法・助成金申請の基本、(2)想像力を膨らませる絵本の読み聞かせ・図画工作、(3)合唱と演劇、の三部構成で、9箇所のセンターから19名が参加し、実施しました。

これまで研修の機会がなかった参加職員からは、子どもたちとの具体的な活動の仕方がわかり、とても役に立ったと好評でした。



子どもブックフェスティバル開催

児童生徒から一般市民まで、広い層が読書の楽しみに触れられることを目的として、ヴィエンチャン都教育局主催、当会共催で「子どもブックフェスティバル」を3月に2日間実施。子ども達の民族舞踊の発表や紙芝居コンテスト、絵本作りなどが賑やかに催されました。

また、ラオス最南部チャムパサック県のスクマー郡で、4月26日、郡教育局主催、当会共催によるブックフェスティバルが開催されました。地方の郡教育局がこのような催しをおこなうのは初めてのこと。教育局スタッフが中心となり、2年前から準備されてきました。彼のようなキーパーソンが後に続くことが期待されます。



高校生対象のための奨学金事業（受託事業）

高校生（中学5年～7年生）が対象。ヴィエンチャン都内の全公立中学高校84校に願書を配布し、200人以上から応募がありました。書類選考と面接をおこない、99人の奨学生を決定し、1年間の奨学金を給付しました。家庭や学校を訪問し、丁寧な面接をおこなったことにより、経済的な困難にある学生へ支援が届き、効果が高い事業となりました。

《The Siam Cement Public Co.Ltd.より受託》

パクライ子どもセンターの子どもたちに聞きました

【週に何回センターに来る？】「3回」「4回」

【好きな活動は？】「お絵かき」「踊り」「編み物」「他の地域に行って活動すること」「友達と遊ぶ」「お話を聞く」

【センターに来てよかったこと】「友達がたくさんできた」「知識が増えた」「他の子に教えられる」

【センターにあったらいいなと思うもの】「送り迎えの車」「ギター」「パソコン」「外国語の講座」

日本での活動

当会は、日本では東京に事務所を設け、活動を広く知らせ、ご支援、参加の呼びかけなどを行っています。また、ラオスの文化を紹介する、どなたでも参加できるイベントや、学校に出向いて国際理解教育の参加型プログラムも実施しています。いずれのイベントもボランティアの仲間とともに作り上げています。

イベント開催

●ラオスの織物展示販売

ラオスの様々な民族の織物、刺繍を使った小物や洋服の展示販売を、各地のギャラリーなどの協力を得て開催しています。今期は、例年より織物販売に力を入れ、5回の織物展を開催し、委託販売などを積極的に実施しました。



●勉強会

ボランティアの勉強会チームが中心になって、ラオスの文化や現地事情、食べ物、絵本など会の活動にちなんだテーマで、講演、料理教室などを行っています。ラオスからの留学生との交流の機会が得られることも、人気を呼んでいます。今期は、4回開催しました。

第13回「ラオス語絵本を作ってみよう！」

第14回「ラオスのむかしばなしと絵本」

第15回「手軽にできて本格派。おはなしも美味しい
ラオス料理教室」

第16回「ラオス語絵本を作ってみよう！」



●ラオスの正月「ピーマイパーティ」

ラオスは4月にお正月がやってきます。当会では毎年、東京・大田区内の施設でラオス料理、民族舞踊などラオス色満載のパーティを開催し、多くの方の好評を得ています。今期は118人が新年を祝いました。

小・中・高校・大学に、開発教育の授業を出前

当会スタッフが学校に出向き、国際理解教育（開発教育）の参加型授業を実施しています。今期は小学校1校、中学1校、高校2校、大学1校、計4校で、ラオスの紹介や日本の絵本にラオス語訳を貼る「ラオス語絵本」プロジェクトを実施しました。

参加型プログラム

●スタディツアー

「絵本作家長野ヒデ子理事とチャンタソン共同代表と行くラオス～活動視察と文学交流・織物の旅～」というテーマで、12月にラオスへのツアーを実施しました。ヴィエンチャンとルアンパバーンを巡りながら、活動視察とラオス文学や伝統文化を学ぶ旅となりました。



●ラオス語絵本プロジェクト

ラオスの子ども達に多様な絵本を提供するために、日本語の絵本にラオス語訳を貼り付けてラオスへ送るプロジェクトを実施しています。今期は、24組が参加し421冊をラオスへ送りました。

●書き損じハガキの収集

書き損じハガキを集め、プロジェクト運営資金に活用しています。書き損じハガキ3枚が、ラオスの絵本1冊分に相当します。今期は、63件、195,015円相当のご寄付をいただきました。

組織の運営

1. 全体運営

■会員

昨年度末の活動会員66名、サポーター137名から若干増加しました。

活動会員 81名

サポーター 146名

■総会

9月22日、第10期2012年度通常総会を開催し、第10期事業報告、会計報告が承認されました。

参加者 活動会員45名(書面表決、委任状を含む)、協力者5名 計50名

■理事会

理事9名、監事2名により運営され、3ヶ月毎、年4回開催。第2回の理事会は「明日を考える会議」と題し、会員やボランティアも参加し、プロジェクトを支える組織運営や現状認識、解決方法について話し合う場としました。

■代表スタッフ会議

月1回、共同代表、事務局長、スタッフにより開催され、運営業務に関する意思決定をおこないました。

■活動ミーティング

ボランティア、会員が集まる活動ミーティングは、計6回開催。参加者はのべ94名と、前期より増加しました。

2. 東京事務所

■体制

以下のメンバーにより運営されています。

常勤非専従事務局長 1名

常勤専従スタッフ 3名～4名

(10月に1名退職。11月にラオス事務所から1名異動。5月に1名入職)

■資金調達

資金調達に厳しい状態が続き、強化を図っています。通信の内容や寄付メニューなどの広報を工夫するよう心がけました。企業や団体に、活動支援の提案をおこなった結果、新規の支援に結びつきました。

■ボランティア・インターン

会計やイベントなど継続したボランティアの協力により事務局運営が支えられています。



年間を通じた2名の学生インターンに加え、今期は社会人インターンや短期間の学生インターンも受け入れ、NGO活動の現場に触れる機会を提供するとともに、業務補助として活動してもらいました。

3. ラオス事務所

■体制

常勤スタッフ7～12名により運営しました。

事務所所長 1名

常勤専従スタッフ 5～8名

日本人駐在員 1名(10月まで)

アドバイザー 1名

この1年で数年間勤めた若手スタッフ3名が退職しました。しかし、すぐに適切な人材を見つけられなかったことから、6月に新スタッフ1名が加入するまでの期間、一部のスタッフに業務が集中しました。

スタッフ育成のために、勉強会の実施や、タイにあるNGOの活動やワークショップを視察しました。

■資金調達

これまでの顔見知りの支援者コミュニティに加え、今期は資金調達のためのアクションをおこない、新しいチャンネルを開拓しました。

高校生への奨学金受託事業は、企画書を提出し、複数の団体から当会が採択されたもので、次期の継続受託も決まりました。

また、ラオスの企業から図書室開設費用の継続支援も得られました。「おはなしコンテスト」開催費用は、申請したが採択されませんでした。

■ボランティア・インターン

ブックフェスティバルや当会図書館でのイベント実施の際は、協力団体「仏教開発プロジェクト」からボランティアのサポートを得ることができました。

日本人インターンは、社会人1名を8月から3ヶ月間、学習院女子大学の研修プログラムを通し4名の学生を8月に2週間受け入れました。



2012年度 第11期 会計報告 (2012年7月1日～2013年6月30日)

財政の立て直しが、今期の第一の重点目標であり、全体では若干の回復がみられ、当期正味財産増減額を黒字にすることができました。経常収益は、前期と比べて、指定募金は増加しましたが、一般寄付金や企業からの助成金、事業収益はいずれも減りました。しかしながら、経常収益合計が前期とほぼ同じ水準の金額を達成することができたのは、大きな為替差益があったことによります。期首の為替レートが1ドル78.28円だったのに対し、期末は98.58円であり、さらに外貨ドルの残高が多かったことが為替収益の大きな要因です。また、スタッフの退職による人件費の減少、経費削減、プロジェクト開始時期の遅れにより経常費用の合計額が、前期に比べて減少したため、今期は収入に対して支出が黒字になりました。

事業別損益の状況では、人件費の割合が大きい図書館事業が、経常費用が経常収益を大きく上回っています。特別実施事業は、奨学金事業の割合が大きくなっています。

【脇田監事からのコメント抜粋】

一般的に東南アジアにおいては、著作権に関する理解が普及していません。今回、著作権の問題が起きた図書を廃棄して、回収をするというのは、ラオス人スタッフが著作権に関して重く受け止める格好の機会になったと認識しています。

為替差益は、今期だけと受け留め、今後の対応策を考えるべきで、毎年のこととは考えない方が良いでしょう。

【矢崎監事からのコメント抜粋】

今期の監査を実施した結果、検出された事項をご報告いたします。なお、昨年指摘した事項のうち、現金管理が適切でないという事項については、今期監査した結果、改善されていました。今後も内部統制の構築、適切な運営を念頭に、事業を進めていただきたいと思います。

1. 資金調達について

今期の決算では、しばらく続いていた赤字を免れ、黒字で終了することができました。以前厳しい

状況は変わりありませんが、先の見通しとしては、複数年の事業プロジェクトへの資金調達が決定したこともあり、しばらくは安定した事業遂行が可能だと思います。さらに継続して事業を実施するためにも、この間に、さらに安定的な資金調達、特に会費や寄付の募集方法を検討する必要があります。

2. ラオスでの資金調達について

今期大きな成果と言えることとして、ラオス事務所が自主的に資金調達をしたことが挙げられます。現地化をすすめるうえで行っているラオス事務所職員の意識改革が少しずつ成果となってきている結果だと思います。ただ、資金調達上、事業費に係る分だけでなく、管理運営に回せる費用も確保しつつ資金計画を組み立てられる

活動計算書

科 目	金 額
I 経常収益	
1.受取会費	910,000
2.受取寄付金	5,489,358
3.受取助成金等	16,186,932
4.事業収益	6,944,770
5.その他収益	1,950,459
経常収益計	31,481,519
II 経常費用	
1.事業費	
(1)人件費	8,749,188
(2)その他経費	15,132,757
事業費計	23,881,945
2.管理費	
(1)人件費	3,856,375
(2)その他経費	2,759,811
管理費計	6,616,186
経常費用計	30,498,131
税引前当期正味財産増減額	983,388
法人税等	70,000
当期正味財産増減額	913,388
前期繰越正味財産額	11,796,234
次期繰越正味財産額	12,709,622

貸借対照表

科 目	金 額
I 資産の部	
1.流動資産	22,191,122
資産合計	22,191,122
II 負債の部	
1.流動負債	9,481,500
負債合計	9,481,500
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	11,796,234
当期正味財産増減額	913,388
正味財産合計	12,709,622
負債及び正味財産合計	22,191,122

かについては、まだ不安な要素があるようです。
今後、改善されることを望みます。

3. 未払金について

貸借対照表上計上されている未払金は、理事及び職員に対する未払金です。資金繰りの面から厳しい状況が続いていたことも影響しているようですが、一部の者に負担をかけることは望ましい状況ではないので、速やかに精算するようにしていただきたいと思います。



事業別損益の状況

科 目	経常収益計	経常費用計
出版事業	1,319,845	1,681,360
図書活用強化事業	9,935,875	9,935,875
図書館事業	2,851,749	3,506,708
子どもセンター事業	1,366,688	1,215,061
特別実施事業	2,254,069	2,725,546
スタディツアー	2,733,593	2,574,208
交流事業	482,087	690,336
収益事業	3,731,743	1,809,957
図書商品棚卸	0	-257,106
事業部門計	24,675,649	23,881,945
東京管理費	4,645,292	5,351,138
ラオス管理費	2,160,578	1,265,048
管理部門計	6,805,870	6,616,186
合 計	31,481,519	30,498,131

2013年度 第12期 事業計画 (2013年7月1日～2014年6月30日)

□背景と方向性

ラオス社会の著しい経済発展により、子どもたちが生まれ育つ場によって、教育を受ける環境に大きな差が出はじめています。ある程度のお金がある家の子どもたちは、将来の経済的な安定度をもとめ、より高い教育を受けようと、塾に通い、英語や中国語を低学年から学ぶことが常態化し、家庭に経済的余裕がなく、都市化していない地域の子子どもたちは、十分な教育に触れることの無いまま義務教育を終えています。この社会の分裂が進むなかで、NGOはどのような役割を果たすのか、組織のミッションを再度点検し、経済発展にともなう社会変化の中での活動の意味を、常に問い直す必要性があります。その中で、私たちが数年前から選んできたことは、読書推進活動の自立促進です。これは活動の担い手であるラオス事務所の自主、自立と、全国の現場を担うニータート(教育指導官)や教員など、活動をともに支える人々の自主、自立と二つの側面を持っています。つまり、東京からの指示で動く運動体から、ラオスの人々自らが、考え活動していく組織体に変化してゆかねば、読書推進活動が、地域に根ざし、持続効果的なものとならないとの気づきです。しかし、これは机上の想いで達成されるものではなく、ラオスでの読書推進活動を支えようという意思をもった人材が、実際に増えない限り成果となりません。これはハードルが高いことです。その一方で、私たちが続けてきた、子どもたちに本を提供し、多様な世界の喜び、楽しさを伝える活動の中で育った若者が、この数年、私たちの周囲に増えていることに勇気づけられてもいます。地方の少数民族の多い地域の学校で図書室を懸命に盛り立てていた先生、この活動を担いたいと事務所に転職してきた新スタッフ、定年退職後も子どもたちへ読書の習慣を広めたいと活動を続ける元教育指導官、休日や放課後の子どもたちの居場所をつくり活動する小学校教員など、徐々に子どもたちの未来のために生きていこうという人々の顔が見え始めている実感があります。

今期の運営責任を持つ理事・監事は以下の12名です。2013年9月21日に実施した通常総会にて承認されました。その後おこなわれた理事会にて、チャンタソン インタヴォンが代表に選任されました。

理事	・後藤 さち子	新任	・猿田 由貴江	再任
	・塩谷 光	再任	・新藤 雅章	新任
	・田島 伸二	再任	・チャンタソン インタヴォン	再任
	・富山 勝男	新任	・野口 朝夫	再任
	・広瀬 未奈	新任	・森 透	再任
監事	・矢崎 芽生	再任	・脇田 康司	再任

ラオスでのプロジェクト

I. 本に会い、親しむ（読書推進活動）

●図書活用が活発に行われるために

カムアン、サワナケート、チャムパサック、セコーンの4県36の小中学校を対象に、2年に渡り実施してきた事業のまとめをおこないます。全対象校を訪問し活動状況を確認。ネットワークの構築、モチベーションの向上、発展した図書活動を展開する応用力を習得することを目的としたまとめの研修を実施します。（外務省日本NGO連携無償資金協力）

●学校図書室地域化事業

ルアンナムター県、ヴィエンチャン県の計6郡で、小中学校16校の教員、校長、児童生徒、保護者を対象とし、地域に根ざした図書活動を展開。地域住民を巻き込むことで、学校の図書活動の担い手の裾野を地域に広げます。（JICA草の根技術協力事業）

●図書室の開設、図書の補充

12校に図書室を開設。過去3年間に開設した31校に補充図書を配布。既設のハクアーンを巡回訪問し、図書室運営のアドバイスと、図書活用方法の指導をおこないます。また、読書推進センター活動のバックアップをおこない、各学校の図書活動のフォローアップを強化します。

●ラオス事務所併設こども図書館の活動

子どもが主体的に参加できるアクティビティを工夫しておこないます。読みきかせや劇などのコンテストを実施し、読書だけではなく表現する場を作り、そのモチベーションを引き出します。また、図書活動のリーダーとなるボランティアを育成します。

II. 本をつくる（出版プロジェクト）

出版プロセスの見直しと、著作権の認識を深める活動を重点的におこないます。「多様な種類」「子どもや人々から必要とされる」「若手作家の育成」という点を重視しつつ、図書5点、紙芝居1点を出版します。出版事業担当スタッフに研修をおこないます。

III. 集い、表現し、学び合う（子どもセンター）

これまでの支援を振り返り、インタビュー調査をおこない、本事業に関する評価活動を7～8月に実施します。活動のマンネリ化を防ぎ、魅力的な活動を展開するためのテクニックやノウハウを伝える運営強化セミナーを、館長や職員を対象におこないます。

日本での活動

引き続き、「開発教育・国際理解」「スタディツアー」「ラオス語絵本プロジェクト」などの活動をおこない、ラオスの子どもたちの状況や会の活動への理解を深めます。また定例の活動ミーティング・勉強会では、活動を支える人々、関心を持つ人々とのネットワークを強めていきます。

組織の運営

運動体として、活動理念などを分かりやすく発信するよう心がけ、迅速な情報提供により、会員、理解者、支援者を増やし、資金調達力を高めることで経営の安定化を達成します。

ラオスで展開している様々なプロジェクトの自立促進化への理解を広めます。東京事務所とラオス事務所との日常的なコミュニケーションを深め、さまざまなレベルでの情報交換、共有化、さらにスタッフの能力強化をおこなうことで、組織の運営能力の向上を図ります。

2013年度 第12期 予算

（2013年7月1日～2014年6月30日）

活動計算書

科 目	金 額
I 経常収益	
1.受取会費	1,100,000
2.受取寄付金	6,194,858
3.受取助成金等	27,622,343
4.事業収益	7,500,000
5.その他収益	300,000
経常収益計	37,867,201
II 経常費用	
1.事業費	
(1)人件費	12,095,722
(2)その他経費	19,215,243
事業費計	31,310,965
2.管理費	
(1)人件費	3,483,558
(2)その他経費	2,709,500
管理費計	6,193,058
経常費用計	37,504,023

事業別損益

科 目	経常収益計	経常費用計
出版事業	1,351,155	2,180,369
図書活用強化事業	6,690,041	7,071,592
図書室地域化事業	9,588,285	8,835,265
図書館事業	3,150,362	3,066,104
子どもセンター事業	1,197,358	2,316,456
特別実施事業	2,550,000	2,575,000
交流事業	3,600,000	3,286,545
収益事業	3,900,000	1,979,634
事業部門計	32,027,201	31,310,965
東京管理費	5,090,000	5,187,058
ラオス管理費	750,000	1,006,000
管理部門計	5,840,000	6,193,058
合 計	37,867,201	37,504,023

方針

資金調達の働きかけを強め、新規ドナーを獲得
新規寄付メニュー、認定NPO法人のメリット等、伝え方を工夫
ラオス事務所での資金調達を拡大

□ 第6次中期計画（2013.7～2016.6）概要

第6次中期計画が始まりました。第5次中期計画を東京、ラオス事務所スタッフ、理事、ボランティアたちとともに数回にわたり振り返り、評価した上で、次の3年間の活動方針を定めました。その基本方針は 1. ラオス社会の急激な変化の中、より機会に恵まれない弱者への教育支援・協力を強く意識する 2. ラオス事務所の自立を促進する、という大きな枠組の中、1. 組織活動の質を高める 2. 健全な財務体質を構築 3. 活動の担い手の形成促進 4. プロジェクト評価とプロジェクトの方向性の再構築、に重点を置くことになりました。以下、概要です。

□プロジェクト

	方向性・方針	活動	3年間の達成目標・成果
ラオス	読書推進	図書活動の拠点が地域へ広がり、図書利用の機会が増す	対象16ヵ所で、文庫が設置されている
		学校図書室の整備、各学校の運営能力の強化	新規開設30ヶ所。既設図書室100ヵ所をフォロー
		読書推進センターの運営の継続、自立化	読書推進センターが5ヶ所以上で活動を継続
	出版事業	県教育局、郡教育局、学校、ALC間のネットワークの構築	教育局からの報告が毎年届く
		より困難な状況にある子どもたちへサービスを意識	聞き取りなどの実施
		出版システムの確立	研修の機会、勉強会を実施
	子どもセンター	多様な本の計画的な出版	出版候補作品が常に準備されている状態にする
		多様な本の計画的な出版	多様な本を、年6点以上出版
		多様な本の計画的な出版	コンクールを年1回実施
		多様な本の計画的な出版	図書販売数が年5%増加
日本	訪問・出前活動	事業の自立準備として、出版の事業意識を高める	3年目に海外での図書の紹介を実現
		海外へ出版図書の紹介をする活動にとりくむ	研修を3年間で2回以上実施
		海外へ出版図書の紹介をする活動にとりくむ	3年間で人件費支援をゼロにする
	ALC図書館	スタッフ・講師の意欲、能力を高め、子どもの満足度を高める	コンテストやイベントを年2回以上実施
		各センターの運営支援方法を見直す	実施経費の70%以上をラオス国内で調達
		活動成果やモチベーション向上を狙いとしたイベントを実施	3年目に検討会議を実施
	新規プロジェクト	「子どもが楽しむ居場所」「様々な表現活動に触れる場」を維持	利用者数の増加
		「子どもが楽しむ居場所」「様々な表現活動に触れる場」を維持	年間イベント計画に沿って活動されている
		「子どもが楽しむ居場所」「様々な表現活動に触れる場」を維持	調査の実施
	開発・検討	地域への図書館としての役割に、遊び場としての要素を加える	調査の実施
		地域への図書館としての役割に、遊び場としての要素を加える	調査の実施
		地域への図書館としての役割に、遊び場としての要素を加える	調査の実施

□組織運営

	方向性・方針	活動	達成目標・成果
運営方針	活動の理念、使命の確認、再構成	社会変化にともなうNGO活動根拠の再理論化	活動資料・教材のリニューアルが完了
		経営担当理事あるいはアドバイザーの設定	訪問／出前活動を、年4回以上実施
		理念の確立、共有化、人材育成、経済的自立など多様な面から進める	年1回以上実施
	日本	文書化の徹底、公開の促進などによりアカウンタビリティの向上	合計参加人数50名以上
		プロジェクトごとの報告書類を完備、各種手順書を整備	リストの50%以上のタイトルの翻訳をチェック
		会員のボランティアへの働き掛けを強化し、支援者を広げる	新規作品を10タイトル加える
	ラオス	東京、ラオス事務所での情報共有の徹底。定期会合の開催	
		プロジェクトごとの報告書類を完備、各種手順書を整備	
		理事会設置を検討する	
	体制	理事、理事会の役割明確化、担当制の導入と強化 理事の運営関与の拡大	
		プロ意識の強化 計画的な研修参加	
資金調達	自己資金調達能力の向上により、財務基盤を強化する	インターン・ボランティア等の役割、責任を明確化。参加度を高める	インターン等が主体となる業務が増加する
		所長、副所長体制の確立。駐在スタッフによるアドバイス	副所長を設置。職務権限の明確化
		定例会合により共同意識を高め、スタッフの積極的な組織運営、プロジェクト関与を図る	各スタッフからの提案が増加する
	日本	イベントなどを通じ読書推進活動のサポーターを増やすよう働き掛ける	ボランティア、サポーターが増加する
		活動理念を分かりやすく伝える努力により、支援者、寄付者を増やす	
		資金調達担当スタッフ、理事を設定することで資金調達の働き掛けを強める	収入が20%増加する
	ラオス	支援者のニーズにあった新規寄付メニューの開発	新規寄付メニューを導入
		団体、組織との連携を促進し、ラオスでの支援者を増やし、資金調達をおこなう	支援者数の増加。新規ドナーの獲得
		資金調達を意識したイベント、プロジェクトを企画する	資金調達額が増加する
	広報	紙媒体とデジタル媒体とのバランスを模索する	
		ホームページのリニューアル	ホームページの改訂が完了
ネット	対外的発信活動の質を高める	会員向けのサービスの充実	メールリストなどを改善。頻度が増加する
		活動を社会に認知させる広報を強める	広報の頻度が増加する
		英文でのプロジェクト報告書の作成	英文プロジェクト報告書の公開
	ラオス		
	教育事情や活動に関する情報を積極的に地域で発信		
	組織運営、事業展開の効果を高めるため、ネットワークを強化		

特定非営利活動法人ラオスのこども の目的

子どもが自らの力を伸ばす権利、人生を主体的に選択する権利を全うできるよう、教育の普及に協力することで、公正で平和な地球社会づくりに貢献することです。そのため、今日子どもが教育を受ける機会を十分得ていない地域のひとつ、ラオスにおいて、本の出版、読書の習慣の普及、子どもが集い遊び学べる場の支援など、子ども自らが学ぶ力を伸ばす環境を生み出す活動を行います。活動を通じて得た知識、情報は地域と地球社会に発信していきます。活動にあたっては、子どもの参加と、日本およびラオスをはじめとした人々の参加を促し、誰もが対等に力を発揮し合う関係を作り出すことで、それぞれが成長の機会を得ることをめざします。（定款第3条目的より）